

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	3 郷土文化の保存・継承	② 施策番号	7611
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	5 まちの風土や歴史的資産が今に息づくとともに、これらを基盤とした新たな文化が花開くまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 市民文化の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	生涯学習課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	伝承文化を継承している団体。
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	団体の活動を支援し、市内に残る貴重な伝承文化を未来に継承する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	近年、泉南市域において貴重な伝承文化が失われつつあり、これらを保存・継承していくことは重要である。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 支援を行った伝承文化団体数 計算式	団体	着実に団体に支援を行うことが必要であるため。
② 団体に所属する会員数 計算式	名	所属する会員によって伝承文化は継承されるものであるから。
③ 計算式		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 支援を行った伝承文化団体数	団体	目標値	4	4	4	4	4	
		実績値	4	4	4	—	—	
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
② 団体に所属する会員数	名	目標値	171	174	174	174	174	
		実績値	171	174	174	—	—	
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%			
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方向性		
1	生涯学習推進事業	市民の参加率	%	8	8	8	3,134	3,359	3,656	B	イ	b	
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
計	1						3,134	3,359	3,656				

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	伝承文化団体を支援することにより郷土文化の保存継承がなされ、市民文化の充実が図られる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	限られた予算の中で支援を行うことで、各団体が着実に活動を行い、各会員に伝承文化が継承される。そしてこれら会員から市民へ伝承文化の重要性が伝えられる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	文化は行政等の上からの押し付けではだけでは育たない。地域に根差した文化を育てるには地域の自主的な団体を育成することが幅の広い文化育成に寄与するものである。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	現状であれば本事務事業に包括されるが、今後さらに一歩進め保護を強力に推し進めることが必要になった場合、現在の事務事業だけでは対応できない。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	現状のまま続けていくことが妥当である。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	伝承文化の継承には、その担い手の確保、育成が必要であるが、今後少子化等により、さらなる担い手不足が懸念され、継続的な支援が必要である。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	団体との連携を強化を検討する。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	上記同様。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	上記同様。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	伝承文化団体への支援により、施策達成に向けた取組が適切に行われている。 団体との連携による市内各地に伝承されている文化の保存・継承に向けた取組を引き続き進められたい。	